

クリバネアザミウマ、モトジロアザミウマ に対する有効薬剤の探索



写真1 クリバネアザミウマ(左:成虫、右:シシトウ被害)



写真2 モトジロアザミウマ(左:成虫、右:ピーマン被害)

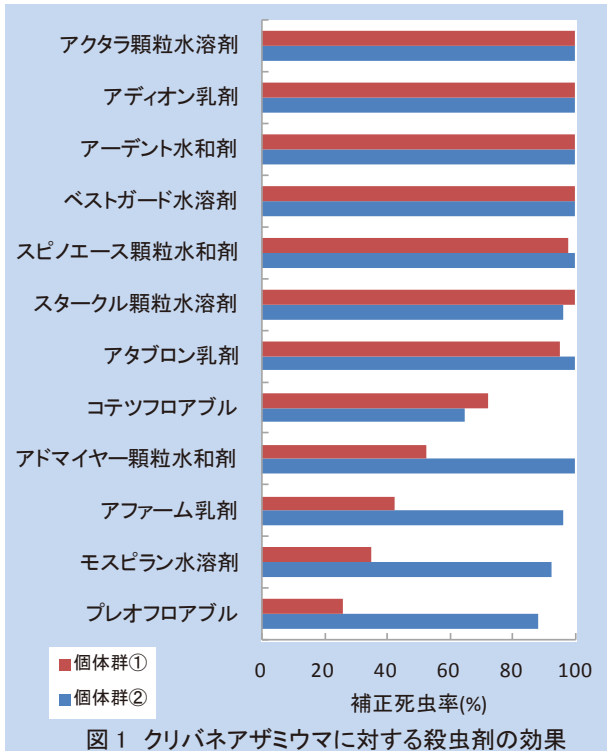


図1 クリバネアザミウマに対する殺虫剤の効果

施設栽培シシトウでは天敵類を利用した総合的な病害虫防除体系が普及しています。しかし、殺虫剤の使用が減少した本防除体系下において、これまで問題となることが少なかったクリバネアザミウマ(写真1)、モトジロアザミウマ(写真2)による被害が発生しています。そこで、シシトウで使用でき、アザミウマ類に対して効果の期待できる12薬剤について、両種に対する殺虫効果を室内試験で検討しました。

その結果、クリバネアザミウマ2個体群いずれにも殺虫効果が高かったのはアクタラ顆粒水溶剤などの7剤でした。コテツフロアブルの効果はやや低く、その他の4剤の効果は不安定でした(図1)。一方、モト

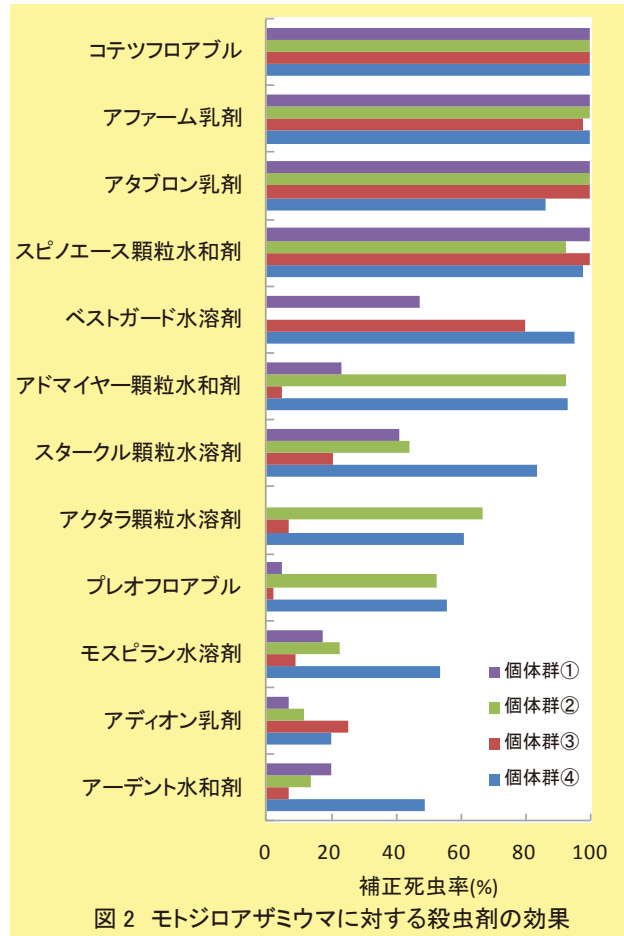


図2 モトジロアザミウマに対する殺虫剤の効果

ジロアザミウマ4個体群いずれにも殺虫効果が高かったのはコテツフロアブルなどの4剤で、その他の8剤は効果が低いか、不安定でした(図2)。

本試験で両種に対して殺虫効果の高かった薬剤はいずれも天敵に対する影響が大きいため、今後は、天敵と併用可能な使用方法および気門封鎖型殺虫剤や微生物農薬の殺虫効果を検討する予定です。

(昆虫担当 垣内加奈子 088-863-4915)